

第 5 次国内調査:岐阜県土岐・瑞浪調査について

【調査日程】 2017 年 1 月 31 日 (火) - 2017 年 2 月 1 日 (水)

【現時点での調査参加者(敬称略)】

松岡 俊二 (研究代表) 早稲田大学国際学術院 (アジア太平洋研究科)・教授
勝田 正文 早稲田大学理工学術院 (環境・エネルギー研究科)・教授
黒川 哲志 早稲田大学社会科学総合学術院 (社会科学研究科)・教授
松本 礼史 日本大学生物資源科学部・教授
井上 弦 神奈川県農業技術センター・技師
中川 唯 東京工業大学大学院 (社会理工学研究科) 博士後期課程
吉田 朗 早稲田大学社会科学研究科 博士後期課程
(計 7 名)

【調査全体の目的】

- 1 深地層研究所反対のロジックは、欠如モデルか、文脈モデルか
- 2 社会的受容性の側面から受容された状態になるには何が必要なのか
- 3 (行政やセンターが) 地域社会とどのように信頼関係を結ぶのか
- 4 センターや行政が深地層研究とどのように向き合っているのか
→ 地域への利益還元? 地域活性化策の一環?
- 5 東濃鉱山の存在が東濃地科学センターに対する賛否にいかなる影響を及ぼしたのか
- 6 土岐市の持ち込み拒否条例の背景にある地域知とは何か

【視察地リスト】

1. 東濃鉱山跡地

【訪問目的】

東濃鉱山は、1971 年に坑道掘削が開始され、1986 年に地層科学研究の場となり、2004 年 3 月掘削終了、同年 10 月休止鉱山として閉山の検討が開始され、2010 年度から閉山に向けた動き、例えば資材撤去など、が始まった。今回の土岐・瑞浪調査では、全ての始まりは東濃鉱山にあるとの認識を軸に、調査を開始することにした。そのため、その出発点である、東濃鉱山の視察が必要となった。

【訪問予定日時】

1 月 31 日 12:30-13:30

2. 土岐市役所

【訪問目的】

土岐市は、1999 年 3 月、議員提案である「土岐市放射性廃棄物等に関する条例」を制定した。その中で、放射性廃棄物の持ち込み拒否を表明している。その一方で、1999 年 3 月に、「土岐市生活環境保全に関する条例」が改正され、同条例第 2 条において、「市は、良好な生活環境を保持し、改善するため、自然の保護、公害の防止、歴史的文化的資産の保存、清純な環境の確保、安全及び災害の防止並びに放射性廃棄物の持ち込み禁止等自然的、

社会的条件に応じた生活環境の確保に関する施策を策定し、これを実施する責務を有する」とされた。そのため、放射性廃棄物持込に関する条例が、同じ時期に 2 つ成立する極めて珍しいケースとなった。本調査では、その背景を調査する。放射性廃棄物に関する地域知がその当時、いかなる内容であったのかは一つの調査項目となる。

【質問事項】

- 1 2 つの条例が成立した背景
- 2 「拒否」と「禁止」、2 つの条例の存在の弊害とは何か
- 3 土岐市の放射性廃棄物に対する当時及び現在の考え
- 4 放射性廃棄物に関する市民からの意見

【訪問予定日時】

1 月 31 日（火） 14:00-16:00

【連絡先】

〒509-5192 岐阜県土岐市土岐津町土岐口 2101

0572-54-1111

（総務部総務課） soumu@city.toki.lg.jp

（経済環境部環境課） kankyoka@city.toki.lg.jp

3. 館林辰郎瑞浪市議へのインタビュー

【訪問目的】

館林氏は、共産党の議員である。共産党は、原発 0 を訴えており、核のゴミの処分場にはならないというフレーズで活動をしている。この活動の一環として、館林氏は、共産党主催のイベントで講演を行っている。議員活動は 4 期目であるが、反対の立場の方々のイベントに講演者として登壇されており、地元瑞浪市議であることから、反対派の視点から地層処分をどのように考え、今後どのように活動していくのかに関してインタビューをおこなう。このインタビューは、特に、社会的受容性 TF チームからすると、受容性が育たない背景の分析につながり、文脈モデル TF からすると、六ヶ所村の菊川氏との比較で、欠如モデルのままでいるのか、文脈モデルで語ろうとしているのかのサンプル事例となると期待される。

【質問項目】

- 1 館林氏のセンターに対する見解
- 2 瑞浪市とセンターの関係性についてどう考えるのか
- 3 自らの主張を広めるためには、何が必要であると考えているのか
- 4 センターは、地域に受け入れられていると考えられるのか

【訪問予定日時】

1 月 31 日（火） 17:00-18:00

【連絡先】

〒509-6101 瑞浪市土岐町 6292-2

TEL: 0572-68-5364

tatatatu@ob2.aitai.ne.jp

【補足：市議会での質問（平成 25 年 3 月）】

「超深地層研究所の統合について。本市と幌延町にある研究所の統合が、検討されているが、この際、本市の研究所の閉鎖を、要望したらどうか」

市長

「文部科学省の日本原子力研究開発機構改革本部は、両施設の研究成果を取りまとめ、今後の方針を、策定するとしている。文科省は、施設の集約と言っていたが、誤解を与えぬように、施設の廃止と、表現をあらためた。今年の秋をめどに、具体的な改革計画が、出されるというが、検討段階から、県と市とも協議するように、国に要望している。国内には、高レベル放射性廃棄物があり、それらの処分方法を、我々の世代で、道筋を立てる必要がある」

「研究所の使用目的が、変えられる危険性は」

市長

「知事も、使用目的が変えられるのは、看過できない、受け入れられないと、はっきり表明されている。わたしも同じ思い。将来にわたっても、高レベル放射性廃棄物を、一切受け入れるつもりはないし、最終処分場を受け入れるつもりもない」

4 東濃地科学センター

<センター公式の地上見学>

見学可能日時：平日 9：00～12：00、13：00～16：00

- ・ 見学時間 100 分
- ・ 見学コース
 - ・ 概況説明（約 30 分）
 - ・ 掘削方法の映像 DVD（約 10 分）
 - ・ 安全装備の着用（約 10 分）
 - ・ 地上設備見学（約 30 分）
 - ・ 質疑応答（約 20 分）

【視察目的】

センターでは、県・土岐市・瑞浪市・センター間で 4 者協定結んでいる。そして、センターの跡地利用に関しての委員会を設置している。本 PJ は、社会的受容性、特に、地域との関係を重要視しているので、施設見学並びに下記 4 点のインタビューをおこなう。

本来は、インタビューだけでもよいのだが、インタビューだけの申し込みが認められるのかが不明な為、一般見学の形をとりつつ、最後の質疑の時間を延長する戦略が望ましいと考える。インタビュー内容は、各 TF が次の段階へ進むために寄与すると考えられる項目を並べている。そのため、質疑応答の時間を 20 分から 40－60 への延長を要請する予定である

【質問項目】

- 1 東濃地科学センターの研究の進捗状況について
- 2 跡地検討利用委員会の議論等について
- 3 周辺自治体との関係について
- 4 地域社会（地域住民）との関係について

5 センター施設の運営状況（施設見学をおこなう）

【訪問予定時間】

2月1日（水曜） 9：30－12：00

【連絡先】

東濃地科学センター

〒509-6132 岐阜県瑞浪市明世町山野内 1-64

Tel： 0572-66-2244(代表)

5 瑞浪市役所

【訪問目的】

土岐市は、東濃地科学センターにおける地層科学研究に係る協定書（県・土岐市・瑞浪市・動力炉・核燃料開発事業団）瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書（県・瑞浪市・独立行政法人日本原子力研究開発機構）、を締結している。前者の協定書において、事業団は、「東濃地科学センターの運営に当たっては、地元雇用を優先するなどにより地元地域の振興に協力する」と定められている。東濃地科学センターだけでは、この条文の実現は不可能であり、市の協力が必要となる。地域振興を通じて、センターへの理解を市民に促し、松本先生が提示される最終モデルへの到達が可能となる。市が、この条文に対していかなる政策をおこなっているのかを調査する。また、跡地検討利用委員会のメンバーには、瑞浪市総務部長の水野正氏がおり、その方に話を聞くことも有効である。利用委員会の議事録は、総務部企画政策課が策定をしていた。

【調査項目】

- 1 この協定書に対する具体的な政策について
- 2 跡地検討利用委員会の議論と瑞浪市の地層処分に対する方針について
- 3 東濃科学センターに対する市民理解並びに受け入れに関する取り組みについて

【調査日時】

2月1日（水） 14:00-16:00

【連絡先】

〒509-6195 岐阜県瑞浪市上平町 1-1

電話番号：0572-68-2111（代）

（総務部総務課） somu@city.mizunami.lg.jp

ロジ案

1 日目 (2017 年 1 月 31 日(火))

8 : 50 東京駅発 (のぞみ 103 号乗車)

↓

10 : 31 名古屋駅着 (中央本線乗りかえ)

10 : 46 名古屋駅発 (中央本線・快速瑞浪行き)

↓

11 : 34 土岐市駅着

(駅にてトヨタレンタカーの送迎によりトヨタレンタカー土岐店へ (約 5 分)、レンタル
レンタル開始時刻は、12 : 00 とする。店から目的までは 15-20 分)

12:30-13:30 東濃鉱山跡地視察

(鉱山跡地-土岐市役所間は、7 キロ・20 分)

14:00-16:00 土岐市役所 訪問

(土岐市役所-館林瑞浪市議の住所地まで 20 分)

17 : 00-18 : 00 館林瑞浪市議 インタビュー

18 : 30 ホテル (ルートイン土岐) にチェックイン

19 : 30 夕食 (夕食先は選定中)

2 日目 (2017 年 2 月 1 日(水))

9 : 00 ホテル発

↓

9 : 20 東濃地科学センター着

9 : 30-12 : 00 東濃地科学センター 視察

12 : 05 東濃地科学センター 出発

↓

12 : 20 瑞浪市役所着

12 : 30 昼食 (市役所周辺のランチポイントは調査中)

14 : 00-16 : 00 瑞浪市役所 訪問

16 : 10 瑞浪市役所 出発

↓

16 : 30 レンタカー返却

(送迎で土岐市駅へ移動)

17 : 20 土岐市駅発 (中央本線・普通名古屋行き)

↓

18 : 11 名古屋駅着 (東海道新幹線乗り換え)

18 : 32 名古屋発 (のぞみ 42 号)

↓

20 : 13 東京駅着